

北教だより

「県学力診断のためのテスト」が実施されます(小学4年生から中学2年生が対象)

期日	対象	小学校 第4学年、第5学年、第6学年	中学校 第1学年、第2学年
令和5年1月12日(木)		国語、理科	国語、理科
令和5年1月13日(金)		算数、社会	英語、数学、社会

各小中学校、義務教育学校においては、令和3年度の「学力診断のためのテスト」の結果から明らかになった課題に対し、これまでの授業の中で計画的にご指導いただいていることと思います。まだ定着が不十分な内容については、課題のある内容を授業の中で取り上げるなどして、一人一人がしっかり理解し、かつ定着できるようにすることが大切です。併せて、テストの事前準備及び実施については、県学力診断のためのテスト実施要項とテスト実施マニュアルを確認し、適正な実施をお願いいたします。

令和3年度学力診断のためのテストにおける結果から見た主な課題

	小学校	中学校
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○目的を意識して、中心となる語を見付けて要約する力(4年②) ○場面の様子を具体的に想像し、表現の効果を捉える力(5年①) ○叙述を基に事実と意見などの関係をおさえて構成を捉える力(6年⑥) 	<ul style="list-style-type: none"> ○婉曲な述べ方に着目し、表現の効果について考える力(1年⑱) ○目的や場面に応じて話題を決める力(1年⑳) ○文章全体と部分との関係を捉える力(2年①)
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○地震や津波から住民を守る仕組みについての知識・技能(4年⑱) ○価格や費用についての思考・判断・表現(5年③) ○国民主権についての知識・技能(6年⑥) 	<ul style="list-style-type: none"> ○時差についての知識・技能(1年③) ○近世についての知識・技能(2年⑳) ○江戸幕府の政治改革についての思考・判断・表現(2年㉕)
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ○四角形の対角線についての思考・判断・表現(4年⑳) ○容積を求めることについての知識・技能(5年⑥) ○速さについての思考・判断・表現(6年⑳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○道のり、速さ、時間の関係について着目して1次方程式を立式することについての思考・判断・表現(1年⑮) ○図形の移動を説明することについての思考・判断・表現(1年㉕) ○回転体である球の体積を求めることについての知識・技能(2年㉒)
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○空気中の水蒸気が再び水になって現れることについての知識(4年⑥) ○水の状態変化についての思考力及び表現力(5年⑥) ○電磁石の性質についての思考力及び判断力(6年②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○像の大きさについての知識及び思考力(1年㉑) ○火成岩に含まれる鉱物についての知識(2年⑱) ○地層年代についての知識(2年㉓)
英語	中学校 <ul style="list-style-type: none"> ○場面に応じて、三人称単数形を用いた英文を正しく書くこと(1年⑱) ○場面に応じて、疑問詞と一般動詞の過去形を用いた疑問文を正しく書くこと(2年⑱) ○対話の概要を捉え、質問に対する自分自身のことについて、英語I文程度で正しく書くこと(2年⑳) 	

お知らせ

第2回管内学力向上推進協議会について

自校の課題の解決に向け、日頃の悩みや解決に向けた取組などを共有する機会となります。研究主任の先生や教科主任の先生等、広く参加を募集します。詳細は、後ほどお知らせします。

期日:令和5年2月1日(水)

内容:授業力ブラッシュアップ研修・学びのイノベーション重点校の取組について

自校の課題の解決に向けた研究協議

令和4年度学力向上推進プロジェクト事業に係る
授業カブラッシュアップ研修重点校授業発表会

研究主題 主体的に学び、自分の考えを表現する児童を育てる算数科学習指導の在り方
～「つなぐ」「広げる」「深める」授業の工夫を通して～

高萩立市秋山小学校
(算数)

目指す児童の姿 「既習事項を大切にしながら、根拠を基に筋道を立てて考察し、
数学的な表現を用いて、自分の考えを表現することができる児童」

★授業改善の具体的な手立てについて

- ① 課題の内容や場面設定、提示方法の工夫
- ② 自分の考えを図や式、言葉などで表し、友達の考えを解釈する場の充実
- ③ 発問や問い返しの吟味
- ④ ICTの効果的な活用

	第6学年(令和4年6月29日実施)	第5学年(令和4年11月2日実施)
単元名	『角柱と円柱の体積』	『四角形と三角形の面積』
単元で身に付けたい資質・能力	底面や高さに着目し、複合図形の体積も1つの角柱とみれば、(底面積)×(高さ)で求められると捉え直すことができる。	既習の図形の面積の求め方を基にして、三角形の面積の求め方を工夫して考えることができる。
ICTの活用	○導入(既習事項の振り返り)・課題提示 ○自力解決(発表ノート) ○全体での比較検討 (児童の考えの提示・図形の回転提示)	○導入(既習事項の振り返り)・課題提示 ○自力解決・適用問題 (デジタル教科書まなビューア) ○全体での比較検討

○既習事項を振り返るペア学習



○学習のつながりを意識した課題提示



既習事項や前時までの学習とのつながりを意識した課題提示を行い、見通しをもって学習に取り組めるようにしました。

○自分の考えを図や式で表現



○自分の考えを説明し合う活動

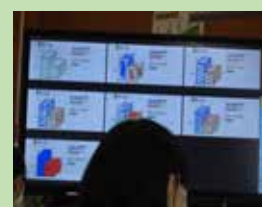


自分の考えを図や式、言葉で表現したり、友達の考えを解釈したりする場の充実を図りました。

○全体での考えの共有・比較検討



[操作しながら説明]



[同じ考えを提示]



[複合立体図形を回転させて提示]

児童のつまずきからの発問や問い返しを行いました。複合立体図形を回転して見せたり、図形の変形を操作しながら児童に説明させたりするなど、ICTを活用し、本時のねらいに迫るための話し合いを行いました。

指導助言 文部科学省学力調査官 稲垣悦子先生

- 児童の実態を丁寧に分析するところから授業を構成し、ICTを活用しながら児童は意欲的に活動することができていた。
- 「何を」「どのように」つないでいか。「つまずき」は、問いにつながる宝物。児童のつまずきからつなぎ、児童同士で話し合って解決させたい。全国学力・学習状況調査を学習指導の改善・充実に役立ててほしい。



秋山小学校の先生方には、令和3年度より2年間、児童生徒の実態把握や教材研究、授業実践など、一丸となって研究に取り組んでいただきました。授業改善に向けた組織的な取組と貴重なご提案に心より感謝申し上げます。